

エダマメ品種「あきたほのか」の播種期と収穫適期の検討

今野かおり・本庄 求・篠田光江

(秋田県農業試験場)

Seeding time and harvesting period of immature soybean cultivars 'Akita Honoka'

Kaori KONNO, Motomu HONJO and Mitsue SHINODA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

秋田県は他県産エダマメとの差別化を図るため、県育成のオリジナル品種「あきたさやか」、「秋農試40号」、「あきたほのか」を育成してきた。このうち「あきたさやか」は8月下旬から9月上旬が収穫期であり、「秋農試40号」は9月下旬が収穫期である。

「あきたほのか」は、「あきたさやか」と「秋農試40号」の間の8月下旬から9月下旬の収穫となり、県オリジナル品種による青豆の継続出荷が期待される。

しかし、「あきたほのか」については安定して収穫できる播種適期とそれに伴う収穫適期が明らかとなっていなかった。そこで安定して収穫できる播種適期ならびに収穫適期について検討した。

2 試験方法

本試験は秋田県農業試験場内圃場で、2014年と2015年の2カ年実施した。品種は本県で育成された「あきたほのか」を用いた。畝幅は80cm、株間は30cmとし、1粒まきとした。施肥量は10a当たり窒素、リン酸、カリをそれぞれ2kg、6kg、6kgとした。

(1) 安定して収穫できる播種適期

2014年は播種を6月5日、6月16日、6月25日の3回行い、2015年は先に記述した3回に加え、7月6日の4回行った。それぞれの播種日のエダマメの生育量、商品収量を調査し播種適期を判定した。

(2) 莢厚の推移と収量の経時的変化による収穫適期の検討

収穫適期の判断項目については、収穫始期を開花後日数と莢厚から判断することが有効であるという意見が多かった¹⁾ため、この2つに注目して調査を行った。2015年に6月16日に播種したエダマメを9月10日、9月14日、9月18日、9月23日、9月28日の5回に分けて収穫し、7月6日に播種したエダマメを9月18日、9月23日、9月28日、10月1日、10月6日の5回に分けて収穫し調査した。各収穫日にそれぞれ6株を調査し2反復で実施した。

収穫したエダマメを着莢部位別に一莢内粒数(2粒莢、3粒莢)別に分け、6mmから11mmまで1mm間隔の莢厚で選別した。莢厚はデジタルノギスを用い、2粒莢、3粒莢ともに茎に近い側の粒を測定した。着莢部位は主茎の1節から5節を下位節、6節から9節までを中位節、10節以上を上位節とし、分枝は1

節から5節の分枝を下位節分枝、6節から9節までの分枝を中位節分枝とし、5部位に分けた。

3 試験結果及び考察

(1) 安定して収穫できる播種適期

商品収量は6月5日播種で98kg/a、6月16日播種で91kg/a、6月25日播種で90kg/a、7月6日播種で70kg/aとなり、播種日越早いほど収量が多い傾向であった。しかし、6月5日播種では主茎長が80cmと過度に伸長し、倒伏がみられたことから減収の可能性が考えられた。6月16日以降の播種では、草丈及び主茎長の生育は安定していたが、7月6日播種では主茎長が36cmと小さく生育が劣った(表1)。以上のことから、「あきたほのか」の播種始期は、当初想定していた6月5日播種よりやや遅い6月10日とし、6月10日から6月25日を播種適期と設定した。

(2) 莢厚の推移と収量の経時的変化による収穫適期の検討

2015年6月16日播種の商品収量と商品莢割合は9月10日(開花後36日)から9月23日(開花後49日)にかけて増加したが、その後、商品収量、商品莢割合の増加は停滞した(図1)。

着莢部位別の莢数は、いずれの播種日でも、下位節分枝が多かったことから、下位節分枝の2粒莢についての莢厚の推移を比較した(図2)。莢厚8mm以上の莢割合でみると、6月16日播種では開花後49日の9月23日で72%、7月6日播種では開花後40日の9月23日で70%となり、この時期には11mm以上の莢が見え始めた。

6月6日播種ではいずれの調査日も食味は良好であったが、7月6日播種では10月6日収穫の莢内の厚膜組織が硬くなり、商品としては不適であった。

4 まとめ

「あきたほのか」の播種適期を商品収量が多く、倒伏の可能性が少ない6月10日から6月25日と設定した。収穫始期は莢厚で判断した場合、2粒莢の莢厚8mm以上の割合が70%となった頃である。

6月25日播種では収穫始期は9月22日であり、7月5日播種では収穫始期は9月23日とほぼ同じ日であるため、6月下旬より播種時期を遅らせても、収穫期はほとんど変わらない。

引用文献

五葉’の収穫判断基準と収穫判定スケール. 東北農業研究 61: 179-180.

- 1) 本庄 求, 篠田光江, 佐藤菜々子, 武田 悟, 田口多喜子. 2008. エダマメ品種 ‘あきた香り’

表1 「あきたほのか」の播種日の違いによる開花日、及び生育量と収量

播種日	～ 日数(日)	開花日 ^z	～ 日数(日)	調査日	地上部重 (g)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	1株あたり 莢数 (個)	商品莢 割合 ^y (%)	3粒莢 割合 ^x (%)	商品 収量 (kg/a)
^v 6月5日	55	7月30日	47	9月14日	841	113	80	122	57	6	98
6月16日	49	8月3日	46	9月18日	704	95	56	100	55	7	91
6月25日	43	8月7日	45	9月23日	625	96	56	97	53	8	90
7月6日	38	8月13日	41	9月28日	390	75	36	69	53	9	70

z: 開花した株が全体の半数を超えた日。

y: 商品莢は1莢あたりの粒数が2粒以上で出荷基準に適合するもの。商品莢割合は全莢数に対する商品莢数の割合。

x: 商品莢数に対する3粒莢数の割合。

v: 6月5日、6月16日、6月25日播種は2014年、2015年の平均。7月6日播種は2015年のみ実施。

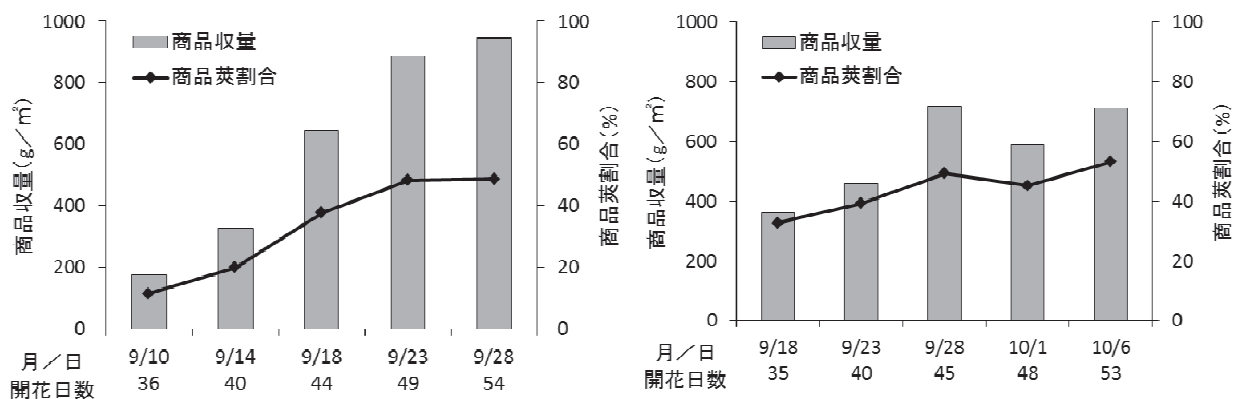


図1 商品収量と商品莢割合の推移 (左: 播種日6月16日 右: 播種日7月6日)

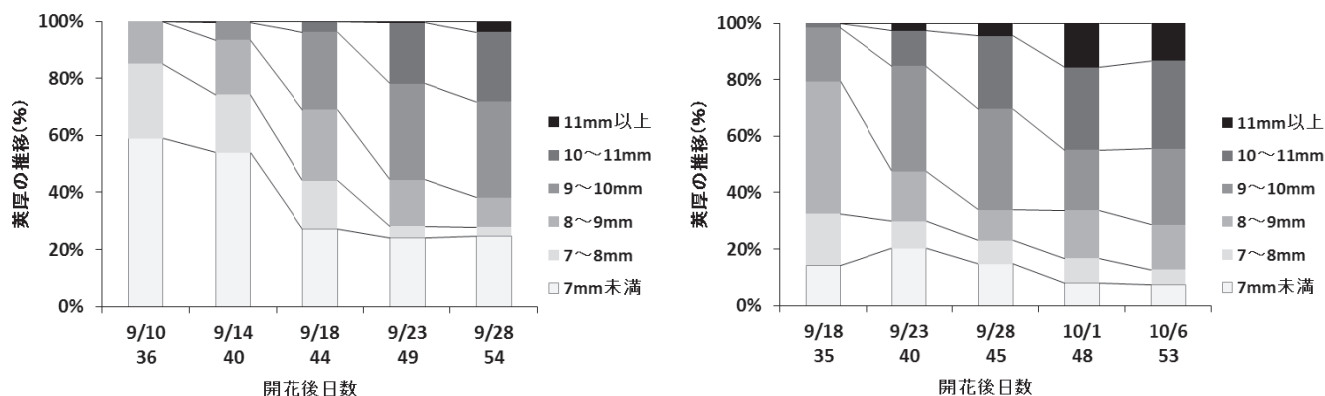


図2 下位節分枝の2粒莢の莢厚の推移 (左: 播種日6月16日 右: 播種日7月6日)